

平成30年度 大田区立糞谷中学校(夜間学級) 自己評価 報告書

平成31年2月28日

○ 本校の概要

○学齢を超えた義務教育の未修了者等の10代から70代までの幅広い年齢の生徒が学習している。そのため、生徒一人一人の習熟度、学習ペースにあった教育活動を行う。  
 また、近年、外国籍の生徒の入学が増加しており、すべての学習の基礎となる日本語や日本文化、日本の生活習慣を理解させるため、個々の生徒の実態に即した教育活動を行う。  
 ○来日して間もない外国人生徒のために日本語を学習するコースを設定する。  
 ○毎週金曜日の4校時は「糞谷タイム」として昔遊び／衛生教室／読み聞かせ教室／お国自慢料理を作る会／全校スピーチ大会／卒業生のお話を聞く会／伝統音楽鑑賞教室／席書会などを実施している。  
 ○犯罪に巻き込まれないように関係諸機関との連携をとりながらセーフティ教室や安全指導を推進し、非行・犯罪被害防止教育の充実を図る。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	評価項目	目標に対する成果指標	成果評価	改善策	学校関係者記入欄
						コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒と面談し、学習のつまずきや学習方法について、助言・支援を行う。	生徒アンケート ・「糞谷中の勉強は楽しい」 ・「熱心に参加している」 ・「わかるようになった」と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	3	・生徒の希望だけではなく、積極的に参加を促した補習を行う。  ・始業前に登校できる生徒には、計画的に補習を行う。  ・家庭学習の課題を与える。	・日本語から教えていく先生が苦勞されている。
		習熟度が異なる生徒に対して、自主教材の開発・提供や指導法の工夫や改善をはかる。				
		生徒個々の学力に応じて始業前や夏季休業中などを利用して補習を実施する。				
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力と未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	法令などの社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を大切にす	生徒アンケート ・「糞谷中の生活は楽しい」 ・「規則やルールを守っている」 ・「そうじをきちんとおこなった」 ・「自分から挨拶する」 ・「先生は真剣に相談にのっている」と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	3	・継続してクラス担任を学年制3名から授業担任制6名にし、さまざまなガイダンス機能の充実を図る。  ・道徳教育の教科化に伴い、さらに充実を図る。	・授業担任の件、素晴らしいと思います。  ・成果評価は4でもよいと思います。(取組評価が比較的高いので。)
		全校スピーチ大会を実施し、自分の考えを自分の言葉ではっきり伝えられるよう指導する。				
		上級学校やハローワークと連携をとり、卒業後の進路についてガイダンスを行ったり、面接講座を行う。				
		面談週間での情報を共有し、個々の生徒の実態に応じた学習面や生活面(家庭・職場・学校)、進路などガイダンス機能の充実をはかる。				
		ケース会議、日本語指導者会議、校内研修等を通じて個々の生徒について共通理解をはかる。				
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を高めて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	生徒アンケート ・「進んで体を動かした」 ・「給食をきちんと食べた」と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	3	・多様な年齢・ライフサイクルの生徒に対して、体育や運動会、放課後の活動への取組などを中心に生徒にあった体力の向上を図る。	・年齢の異なる生徒たちがグラウンドで楽しそうに取り組んでいる様子を見て素晴らしいと感じています。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポーター体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	各種研究発表会や授業改善セミナー等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	生徒アンケート ・「先生の教え方はわかりやすい」 ・「ビデオやパソコンを使う授業はわかりやすい」と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	3	・ICT機器や視聴覚機器は日本語力の十分でない生徒にとって、有効なツールになると思われるので、活用できるコンテンツを増やす。  ・各自が得た研究・研修の成果をC4thで配信し報告する。  ・日本語指導の情報交換を月に一度は行い、日本語指導力向上に努める。	・ICTの活用を期待します。
		各教科部会、教科班会等の研究・研修の成果を共有し、自身の指導力改善に生かす。				
		電子黒板、DVD、PC等のICT機器や視聴覚機器を活用した授業を実施する。				
地域と共に歩む学校づくり	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	生徒アンケート ・「糞谷タイムの授業は勉強になった」と回答した生徒の割合が 4. 80%以上 3. 70%以上 2. 60%以上 1. 60%未満	3	・ホームページだけでなく、C4th等を活用し、夜間学級の情報を積極的に発信していき、リンクがはれるところにはリンクをはる。  ・今年度もさまざまな行政機関の方々と連携した教育活動を実施してきた。今後も継続して発展させていく。	・成果評価は4でもよいと思います。(取組評価が比較的高いので。)
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。				
		大田区多文化共生センター(micsおおた)から通訳派遣してもらい、教育相談や進路指導、生活指導等、学校の教育活動において連携を図る。				
		道徳や特別活動等の教育活動において、大田区保健所、ハローワーク大森、浜竹図書館等区内の行政機関と連携を図る。				